



【典礼部だより】11月の典礼暦から～王であるキリスト～

11月23日・「王であるキリスト」の祭日は、典礼暦で最後の主日です。わたしたちは1年でひと回りする典礼暦を通じてイエス・キリストのこの世での生涯を思い起こしてきたわけですから、その最後が世の終わりに王として来られるキリスト（再臨のキリスト）、キリストがすべてにおいてすべてになる救いの完成を祝う日だというのは「典礼暦ってうまくできてるなあ」と思わずるをえません。

しかしながら、この日の福音朗読（ルカ23・35-43）で描かれているのは、再臨の栄光につまれているとは言い難い十字架上のイエス様の姿。葬儀ミサでよく読まれるイエス様とその左右で磔になっている罪人の物語です。

『自分を救うがよい』と嘲笑う議員たち、『自分を救ってみろ』と侮辱する兵士たち、『お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ』とののしる傍らの罪人。その中で唯一、もう一方の傍らで磔になっていた罪人（伝統的に「善き盜賊人」と呼ばれます）だけがイエス様の無実を宣言し、悔い改めてあわれみを乞います。

この「善き盜賊人」に対するイエス様の『あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる』というみことば故に、福音書のこの部分は葬儀ミサでよく読まれるのでしょうか、「王であるキ

リスト」の祭日の朗読として味わいなおしてみると、イエス様が「王であるキリスト」として最初に王権行使したのが『「これはユダヤ人の王」と書いた札も掲げてあった』十字架の上で、その相手は悔い改めあわれみを乞う罪人であったということに大きな意味があるように思えます。

「王であるキリスト」の祭日の翌週、11月30日からは待降節、典礼暦の新たな1年の始まりです。待降節第1～第4主日では「栄光の賛歌（グロリア）」を歌い（唱え）ません。「無原罪の聖母マリア」の祝日（今年は12月8日〔月〕）のミサでは歌いますが、わたしたちの多くにとって「王であるキリスト」の祭日の後、次に「栄光の賛歌」を歌うのは、「主の降誕」のミサということになるでしょう。この賛歌の中の『いつくしみをわたしたちに』『わたしたちの願いを聞きいれください』ということばは、十字架上の「善き盜賊人」の台詞『イエスよ、あなたの御国においてになるときには、わたしを思い出してください』とつながっているのではないでしょうか。

「王であるキリスト」の祭日では、しばらく歌わないことになる「栄光の賛歌」を、よく味わいつつ歌ってみてはいかがでしょうか。

【総務部から】教会はみんなの家～11月23日は大掃除です！～

皆さま、いつも土曜日の清掃当番へのご協力ありがとうございます。

さて、11月23日・「王であるキリスト」の祭日、ミサの後に毎年恒例の大掃除があります。

細かな分担は当日連絡しますが、ふだんは手の回らない部分もきれいにするため、なるべく多くの方々の手を必要としています。ぜひご協力ください。

大掃除の翌週からは待降節です。わたしたちみんなの家である教会をきれいに掃除して、

Our Church, Our Home



Let's clean up
and get ready for Advent!

クリスマスのための飾りつけもしっかりとし、幼子イエスを待ち望む季節を迎えようではありませんか。

皆さまのご協力をお願いいたします。

【墓地管理委員会から】墓地ミサのお知らせ～教会墓地について～

11月15日（土）午前11時から、水戸市見川町にあるカトリック水戸教会墓地で秋季の墓地ミサが捧げられます。

水戸教会が教会墓地の用地を取得したのは、1937年4月。日中戦争が始まった年でした。当時は信者数、特に都市部での受洗者が飛躍的に増えた時期でしたが、時代が時代です。信者になると先祖代々の墓（多くはお寺の墓地でした）には葬ってもらえないという問題が発生していました。そこで教会墓地が必要ということになり、当時の主任司祭ロック神父様をはじめとした水戸教会の先達の方々の尽力で現在の教会墓地が成立したのです。

典礼部発行の平和旬間の冊子『水戸空襲について調べて』の内容と重複しますが、ロック神父様は、1936年、二・二六事件の年に水

戸教会に赴任、太平洋戦争の勃発とともに敵性外国人として抑留され、終戦のわずか2日後には焼け野原となった水戸に戻り、以降1949年に前橋教会に異動されるまで、県内各地の巡回、罹災者への援助、聖母幼稚園の開設などにつくされました。水戸教会の最も苦しい時期に支えてくださった神父様です。

水戸教会墓地中央にある十字架基壇には、このロック神父様の遺髪が納められています。また、教会墓地にはロック神父様の抑留中に水戸教会を任せ、空襲から聖堂を守り抜いた井上伝道士さんの墓所もあります。

親類縁者のお墓参りも、もちろん大切ですが、同じ教会の偉大な恩人にごあいさつを、という感覚で墓地ミサに参加していただくのも大歓迎です。よろしくお願ひいたします。